

1-8 現代に伝わる製品と参考図(C)―日本髪用髪飾り

大正時代は観劇やショッピングが女性の楽しみとして定着した時代である。和装の装身具にも変化が現われ、日本髪用髪飾りは明治時代以上に多様になりデザインは洗練された。

現代に伝わる束髪用髪飾りが少なめなのに対し、大正期以降の櫛、

こうがい

ねがけ

筥、簪、根掛などの日本髪用の髪飾りは数多く残っている。まだ

日本髪が一般的な時代なので、当然とも言えるが、そこへのこだわりは現在では想像できないほどである。

だが、いろいろあっても、それらが使われた時代を明らかにすることは容易ではない。

そんな時やはり頼りになるのは当時の広告や商品カタログなどのビジュアル資料である。それらを参考に次から大正前期頃に使われはじめたと思われる各種の日本髪用髪飾りを順に紹介する。

使われ始めたのは大正初期でも、それ以降、昭和初期まで長期にわたって使われ続けたものも少なくない。

櫛、筥こうがい なかぎし (中差)

日本髪用の櫛と筥には「儀式用」と「おしゃれ用」がある。この

うち、結婚式などに用いる儀式用は明治時代と変わらず半京形はんきょうがた (ま

たは中京形) と呼ばれる両サイド上 (耳) が角張り、棟幅と親歯幅が広い装飾のない櫛が用いられた。セットで用いられる筥には多く

の場合、花飾りで装飾された。素材にはべっ甲しほうばり 他、四方張、卵甲らんこう

などの擬甲もあった。

図1-8-1は白牡丹本店広告から。図1-8-2は大正時代の実物。

次に紹介するのは、おしゃれ用の櫛、筥。おしゃれ用筥は多くの場合、**中差**^{なかざし}と呼ばれた。櫛と筥の形は時代によって多少の変遷がある。明治後期の櫛は、新橋形と**都形**^{みやこがた}が主流だった。中差にはいろいろな形があったが、明治以来の文函形^{ふばこがた}と呼ばれる中心部が細く両サイドが小箱形の筥が主流。

櫛で大正前期によく用いられたのは、新橋形の両サイド上の角^{かど}(耳)を丸めた都形で、大正初期の三越のカタログ(図1-8-3)や尚美堂のカタログ(図1-8-4)でもこの形を取り上げて紹介している。



図 1-8-2
ベッ甲櫛筥
53 円の価格のついた保険証付き。
筥の花飾りは別売りのようだ。

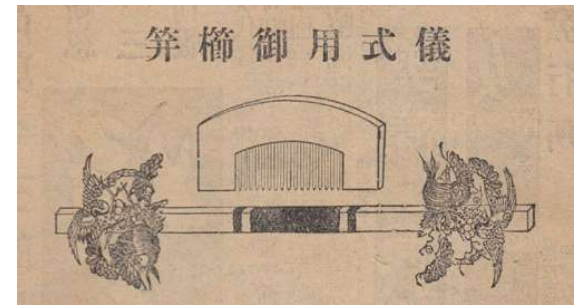


図 1-8-1
大正 4 年 10 月『婦人世界』より
筥の両サイドには取り外し自由の花飾り
(花筥) が付いている。



図 1-8-5

べっ甲都形櫛と文函形筥
菊図
金飾りと貝による装飾的仕上げ。

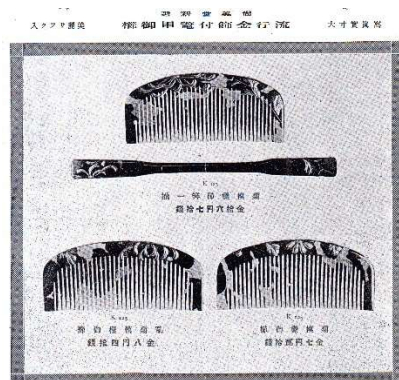


図 1-8-4

べっ甲都形櫛 筥は文函形
菊図
大正3年10月『尚美堂時報』
「金飾付」とあるように、金の
薄地金で菊を表現。

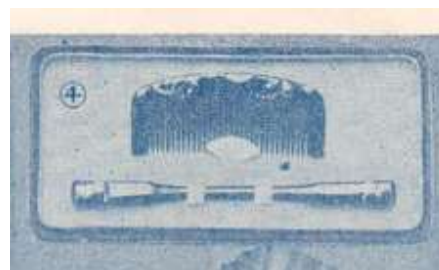


図 1-8-3

べっ甲都形櫛
筥は文函形
大正2年5月『みつこしタイムス』
より
都形櫛筥、22, 3~30 才向とある。

図 1-8-5 はその実物。
素材は明治後期と同じく、高級品にはべっ甲、中級品には木地蒔
絵、普及品にはセルロイドが使われた。
華やかな装飾のものが多く、図 1-8-6 のような装飾を控え目
にした棟幅の小さく幾分小振りな高齢者（35 才以上）向けのものも
あった。

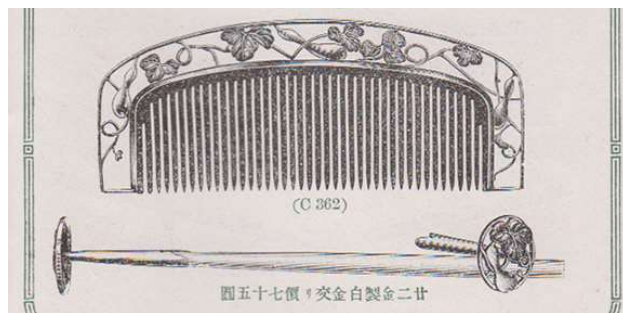


図 1-8-7

都形金 (K22) 透し細工櫛筥

櫛齒はべっ甲、筥は両天筥

大正 4 年 4 月『天賞堂営業案内—貴金属装身具之部』より



図 1-8-6

べっ甲金飾り都形櫛筥

小花図

高齢者向き。

大正前期には、図 1-8-7 の天賞堂カタログにあるような、明治後期以来の枠全体を金や銀の透し細工の都形櫛も用いられた (図 1-8-10 から図 1-8-12 の「透し彫り」と区別するため、ここではこれを「透し細工」と呼ぶ)。

筥は両天筥。車輪状の形なので「車両天」ともいう。この形は

明治後期からある筥で文函形に次いで多く用いられた。図 1-8-8 は、それと同形の実際の銀櫛。



図 1-8-8
都形銀透し細工櫛
櫛歯はべっ甲

都形には多少アレンジされたものもあつた。図 1-8-9 は背丈(山)が高く、棟幅と親歯が多少広めの都形山高櫛。



図 1-8-9
べっ甲棟彫刻都形山高櫛

図 1-8-10 の丸嘉広告に見られる櫛は、ふつくらとしたカーブの半月形状の櫛(ここでは半月形と呼ぶ)。都形の両サイドを丸くした形で、この形は大正期に都形ともよく用いられた。半月形状の櫛にはいろいろあるが、この櫛は棟が20金の透し彫り。中空状の作りなので菓子の最中もなかから「モナカ櫛」とも呼ばれた。筭の両サイドも20金の透し彫り。

金棟の他、一部にプラチナを使ったものや銀棟のものもあつた。

図 1-8-11 は金にプラチナ交りの透し彫り金棟べっ甲櫛・筭。図 1-8-12 は透し彫り銀棟の櫛・筭。

図1-8-13は同じく半月形のべっ甲櫛筥だが、棟の装飾が凝った華やかな作り。当時の最高級品で小粒真珠も嵌入されている。このような棟の金やプラチナでの装飾は「ノセ（乗せ）模様」とも呼ばれた。



図 1-8-12
透し彫り銀棟べっ甲半月形櫛筥



図 1-8-11
透し彫り金棟（K20）べっ甲半月形櫛筥
プラチナ交り
山崎商店（現・田中貴金属ジュエリー）の星Sマーク刻印



図 1-8-10
透し彫り金棟べっ甲半月形櫛筥
大正5年12月『演芸画報』より

月形木地漆塗り櫛。
 図1-8-16と図1-8-17は図1-8-14
 広告下の櫛とほぼ同形の



図1-8-15
 べっ甲蒔絵半月形櫛
 なでしこ
 撫子図



図1-8-14
 (上) 大型半月形の櫛広告
 金、銀、貝の小花図
 べっ甲製の他、べっ甲張、セル
 ロイドもある。
 (下) 月形の木(つげ)台漆塗
 り櫛広告
 「流行の月形に改良を加へし
 最新形」とある。
 大正6年2月『演芸画報』

柄の実物。
 と呼ぶこともあったようだ。図1-8-15は
 形櫛広告(ほう祢んや)。広告文によると、
 当時の「この形を」^{ちよだがた}「千代田形」
 向けの大型半月
 若奥様や令嬢



図1-8-13
 べっ甲金、プラチナ棟装飾半月
 形櫛笄
 菊図

月形と半月形との違いは微妙だが、月形はふくらみのカーブラインがスムーズな流れで、そこが半月形と少し違う。



図 1-8-16
月形木地黒漆塗櫛
松と桜図



図 1-8-17
月形木地色漆塗櫛

図 1-8-18 は平べったい（山の低い）べつ甲櫛歯挽き残し月形櫛の万久広告。図 1-8-19 はべつ甲櫛歯挽き残し半月形櫛の三越広告。棟部の模様の一部が歯に入り込み、歯が一部挽き残されているので「挽き残し櫛」とも呼ばれた。大正初期に始まる代表的櫛の形の一つである。

図 1-8-20 は挽き残し部分がある、べつ甲都形山高櫛の実物。



図 1-8-20

べつ甲櫛歯挽き残し都形山高櫛
鞠まり図
鞠の花の図柄の花芯に極小真珠
を嵌め込んだ手が込んだ細工。

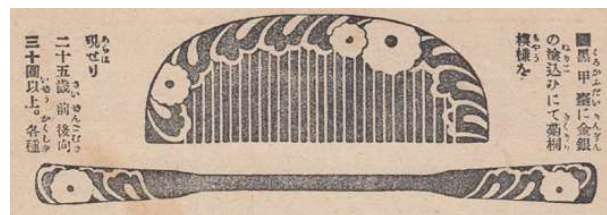


図 1-8-19

べつ甲金銀飾り半月形櫛筭
菊桐図
25才前後向きとある。
大正4年10月『婦人世界』より



図 1-8-18

べつ甲櫛歯挽き残し月形櫛と筭
鼓に桜図
大正6年3月『演芸画報』より
「金、銀、貝スリ込み」との説明



図 1-8-23
木蒔絵半月形櫛、笄



図 1-8-22
べっ甲真珠入り棟透し半月形櫛



図 1-8-21
べっ甲金蒔絵棟透し都形櫛笄
笄は車両天

ここまででは主に、べっ甲の櫛笄を紹介したが、これら以外には高級品の木蒔絵や普及品の安価なセルロイドの櫛や笄もたくさん作られた。図 1-8-23 は木蒔絵の櫛笄。図 1-8-24 はべっ甲に似せたセルロイドの櫛。

図 1-8-21、1-8-22 は棟透しべっ甲櫛。広告資料やカタログ資料は見当たらないが、棟透しの金細工櫛(図 1-8-7)や金の棟透し彫り櫛(図 1-8-10)があった時代なのでから棟透しのべっ甲櫛も作られていたと考えてよい。特注品かもしれない。

少女といっても7、8、9、10才位までの年少の女の子用には、「前



図 1-8-26
つまみ細工月形櫛 2 種

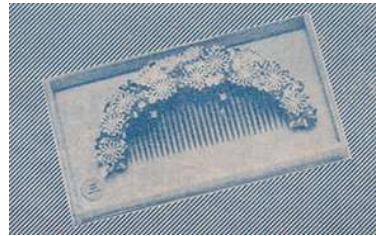


図 1-8-25
つまみ細工月形櫛
大正 5 年 12 月『三越』より

8-26 は実物。
図 1-8-25 は三越カタログからの少女用つまみ細工の櫛。図 1-8-26 は実物。
絹地を小さく折りたたんで、ぎつしりと漆塗りの木櫛に貼り付けた少女好みのカラフルで安価な櫛。明治時代からあるが、大正頃にも少女用の定番櫛として高い人気だった。「花櫛」とも呼ばれ、昭和初期まで盛んに作られた。

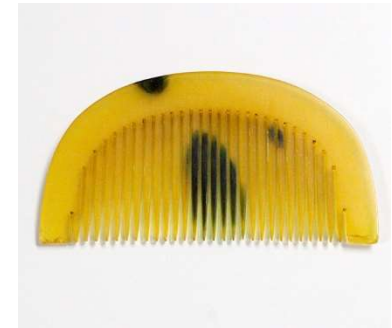


図 1-8-24
セルロイド半月形櫛

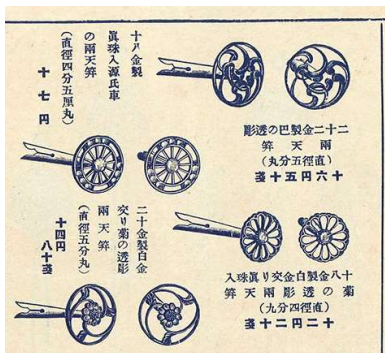


図 1-8-29

18 金、22 金製、プラチナ交り、真珠入りなどの両天筭
大正 3 年『三越』付録「金銀細工帯留と頭飾品目録」より

図 1-8-7 などで紹介した両天筭については、もう少し見ておこう。両天筭のデザインにはさまざまなバラエティがあった。図 1-8-29 は三越カタログから。図 1-8-30、図 1-8-31 は類似の実物。中心に小粒真珠をあしらったものが多い。



図 1-8-28

少女用前飾り
リボン状の飾りはないが前図とほぼ同様の前飾り。



図 1-8-27

少女用前飾り
大正 5 年 12 月『三越』より
下のリボン状の飾りは頭後ろに下がる。

飾り」という髪飾りもあった。
図 1-8-27 は三越で売り出していた前飾りの図。図 1-8-28 はそれと類似の実物。



図 1-8-31
真珠入り金 (K9 か) 両天筭



図 1-8-30
真珠入り金 (K20)、プラチナ
交り両天筭